

# 新山協ニュース

新潟県山岳協会ホームページ <http://www.echigo.ne.jp/~nma/>

会長 遠藤家之進正和  
新潟県山岳協会  
新潟市南区鷺ノ木新田1049  
TEL 025-362-5004

事務局 諏訪恵一  
長岡市高畑町610-10  
TEL 0258-35-4373

編集 新山協ニュース編集  
委員会代表 浅野巨寛  
TEL 0258-52-3998

## 第45回 自然保護 研究会に参加して

伊藤 直 (工友会)

第45回自然保護研修会は、平成19年10月20、21日、巻機山山麓清水地区にて開催された。座学、懇親と宿泊は同地、民宿「雲天」で、野外実習は巻機山にて行われた。

20日午後3時、長岡ハイク高橋委員の司会にて開会、参加者は約60名であった。最初に、本間委員長より、飯豊連峰の登山道修復活動など具体的な取り組みを始めたことなどの報告と実践活動への会員の



松本 清氏の講演

「巻機山登山道30年 巻機山植生復元」である。1977年、当時、登山道に沿い、大規模に雪田草原が裸地化、土壌浸食、斜面崩壊し、池塘が埋没するなど荒廃した巻機山の状況を憂いた日本ナショナルトラストの委託を受け、東京農業大学自然環境研究室が実態調査を実施、地元で報告会

参加の呼びかけがあった。遠藤県山岳協会会長からも、自然保護活動の実践が大切であり、各自何ができるのかを聞いて、できるところからやって頂きたいとの話があった。続いて講師の松本 清さんが紹介された。講師は、日本ナショナルトラスト専門研究員で

「巻機山景観保全ボランティアーズ」代表としてこれまで30年にわたり巻機山の景観保全活動の中心メンバーとして活躍されている。演題は「巻機山登山道30年 巻機山植生復元」である。

1977年、当時、登山道に沿い、大規模に雪田草原が裸地化、土壌浸食、斜面崩壊し、池塘が埋没するなど荒廃した巻機山の状況を憂いた日本ナショナルトラストの委託を受け、東京農業大学自然環境研究室が実態調査を実施、地元で報告会

「巻機山登山道30年 巻機山植生復元」である。1977年、当時、登山道に沿い、大規模に雪田草原が裸地化、土壌浸食、斜面崩壊し、池塘が埋没するなど荒廃した巻機山の状況を憂いた日本ナショナルトラストの委託を受け、東京農業大学自然環境研究室が実態調査を実施、地元で報告会

こうして破壊の進行という事態は一応食い止められ、景観も一部復活してきた。次の課題は裸地の植生復元である。当時は手法が未確立で、実践と実験を同時進行させていった。地道な活動を継続している中で、1986年、県の自然環境保全事業として取り上げられ、県は登山道整備と浸食防止工事を、ボランティアは植生や池塘復元という役割分担をするようになった。その後植生復元にも予算が付くようになったが、株を移植した裸地が豪雨で流失したり、乾燥地割れしたりで事態は一進一退であった。そこで移植・

を食い止めることが必要であり、御機屋直下でできた大きな溝（洗掘溝）からの流水の方向を変えるなどの工事を実施した。地元塩沢町もすぐに対応をしてくれ、行政による資材供給、農大研究室を中心とするボランティアによる労力と技術提供及び日本ナショナルトラストによる全体コーディネートという三者によるシステムが立ち上げられた。この態勢で木道敷設、階段直し等の登山道整備と池塘復元を行っていった。

登山計画書を出しましょう

本来の景観がよみがえり始めた頃、新潟県（第2次、1996～2006年度）と群馬県（1997～2001年度）の保全事業に組み入れられた。この事業では、行政、工事業者、ボランティア三者の良好なパートナーシップが確立され、困難な急傾斜土壌流出地の植生復元を目的とし、行政は土止め丸太筋設置や浸食地の埋め戻し、客土など大仕掛けな基盤整備を、ボランティアはその後の植生復元作業を担当した。御機屋南面と偽巻機（八合目から上）の巨大ガレ場を対象区域とした。この頃から、コモより効果が高いジュート製の緑化ネットと、光合成バクテリアなどを使用するようになった。御機屋南面にはヌマガヤを播種した。偽巻機ガレ場にはヒロハノコメスキを播種し順調に生育していたが、現在は植生遷移の最中であり、本来の植生に戻る兆しとして観察中であるとのことであった。ヤチカワズゲを移植・播種した場所でもそれがヌマガヤに遷移するなど、本来の植生に戻ってきていて、自然植生復元の良い実例になっている。松本

講師は最後に県山協に緑化ネットの荷揚げ等への参加を呼びかけ、講演を終えられた。質疑に答え、ボランティア作業は、夏・秋の年2回やっており、日程については現在調整中であるがホームページで告知したいとのこと。なお、県山協でも今後情報を出していきたいとのことであった。4時50分に終了した。また、坂井参与から五頭山三ノ峰登山道修復作業の報告と五頭山スキー場跡の植生復元作業への参加呼びかけがあった。

6時より懇親会が始まり、「ひとりぼっちの叛乱」とうちゃん、巻機山に生きろ」の「雲天」主人より挨拶があった。酒宴はいつものように盛んだったが、少し違うのは山菜料理が楽しめたことだった。翌21日、曇り。6時10分雲天発。6時30分駐車場より登山開始した。参加者は当日コースを取る。八合目に来ると岩や地面にうっすらと雪が掛かり、ナナカマドなどの灌木にエビノシツボが着いている。その上部のガレ場にかかると、丸太組や緑化ネットがしてありコケやその他の植物がまばらに生え始めていた。ニセ巻機から巻機小屋への下りは木道に雪がうっすらと載っていて神経を使った。竜王ノ池は見事に復活し水を湛えていた。そこから上部の道も元気に植生が復活しつつあり、ボランティアの皆さんのこれまでのご努力と日頃の管理のご苦労がよく分かる。その中で、沢の様にえぐられた洗掘溝は痛ましく、これも将来埋め戻したいものだと思っただがあまりの大規模さに圧倒される。視界50m程の山頂着10時30分。記念写真を撮る。小屋前まで戻って昼食を取った。ときどきガスが切れ、眼前にオオンラビソと緑の雪田草原にヨウラクなどの紅葉が混じった巻機の景観が展開する。11時25分ここで解散となる。晴れて美しい紅葉の中を下し、2時に駐車場に帰着した。

この研修会に参加し、新潟県人としてやや複雑な思いがし、会長や委員長の呼びかけにもあったが、巻機山に限らず自分のできる場所で自然保護の実質活動をやるべきことを思い知らされた。

今秋 晴れの授章 山岳自然保護・岳人の育成に日々精進

藍綬褒章に輝く

田中榮弘さん 長岡ハイキングクラブ



授章された田中榮弘さん

自然公園功労者・環境大臣表彰に輝く

橋本正巳さん 高田ハイキングクラブ



講話中の橋本さん

新潟県教育委員会

スポーツ振興表彰に輝く

藤井 信さん 長岡ハイキングクラブ



講話中の藤井さん

長年その地域を自然保護の思想に基づき、その普及への尽力。登山者への献身的な安全指導に貢献された、藍綬褒章の田中さん。自然公園功労者・環境大臣表彰の橋本さん。それらとともに岳人育成を念頭に尽力された、新潟県教育委員会・スポーツ振興表彰の藤井さん。各氏のそれら多くの功績が認められ、今秋の発表、授章となった。

越後の山に見られる 変種植物

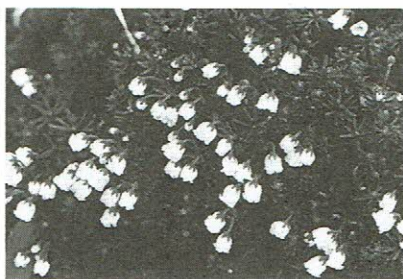
むささび会 加藤 明文

◆ ツガザクラ属 *Phyllodoce*

⑱ ソラムキツガザクラ



ソラムキツガザクラ  
鉢ヶ岳 8月4日



母種 ツガザクラ  
唐松岳 7月10日

北アルプスの鉢ヶ岳を中心とした新潟・富山の境に見られる。普通ツガザクラ属は鐘型やツボ型の花をつけるが、本種は花が天を向いたり、大きく平開したりする。

品種名は *F. ascendens* 「斜上の」で空を向くの意。母種は東南部～中部日本に産するツガザクラで花は白く鐘状。種名 *nipponica* で日本のツガザクラ。属名 *Phy.*、葉状茎の意で、ツガの葉型が茎にびっしりとつく様からの名。

飯豊の沢はやつぱり一味違う  
飯豊・胎内川合宿 (胎内川 本源沢)

楡井利幸 (映彩山岳会)

●日程  
平成19年

8月14日～8月17日  
●M (L) 都丸藤孝 (31)  
小畑壮史 (28)

楡井利幸 (53)

一昨年、昨年と計画していた胎内川は、悪天候やメンバーの都合で実行出来なかった。今回条件も整い念願の遡行をすることが出来た。

●8月14日

奥胎内ダム工事現場より全員ウェットスーツ着用で入溪する。水量は少なめで積極的に水線をたどった。下部ゴルジュ帯の釜を持つ小滝が二つ連なり、その下流にトロを持つ

た箇所、トップが果敢に泳ぐも押し流される。右岸を小さく捲いて上部へ降りた。ここで共同装備のライフジャケック

トにロープをつけて下流に流そうとしたが、複雑な水流にもまれロープに結び目ができて、それが岩に挟まれロックしてしまった。ピンチかと思っ

たが、都丸がライフジャケックを回収する事ができて事なきを得た。13時、団子河原着。大分時間は早い、ここで泊まりとした。

●8月15日

西俣沢合宿から先はV状の険谷となり、次から次へと出現する滝と釜は我々に息をもつかせない。よく写真で拝見する堰堤状の滝も美しく登れた。

「龍の棲む」、と、と呼ばれる釜は右岸の際どいトラパスから7メートルの懸垂下降で降り立つ。本源沢の出合にも雪

は無く、ここでビバークの予定でザックを置き、空身で明日のためのルート工作に出る。最初の5メートル滝が登れなかったが投げハンマーが成功し、更に上部の連瀑を超えたところでビバーク適地が見つかった。ザックを取りに下降して登り返すと丁度いい時間になっていた。

●8月16日

最初の7メートル滝を左のクラックから取り付いてみるが、あと一歩が出なくて敗退。美しい20メートル滝を捲き終わると沢はゴロ状となりほとんど高度をあげる。水が涸れてからは、一層急になり何回もロープを出した。14時すぎにやっと稜線に出て、胎内尾根(廃道)を下山。適当な平地でビバークする。

●8月17日

下山。池の平峰より下部は道が良い。今回は天候・水量とも好条件で、ほぼ水線通しの遡行が楽しめた。若い人に行く飯豊の沢はとても素晴らしかった。(詳しい遡行記録はホームページで)



▶本源沢の核心部

つ。本源沢の出合にも雪

# 『やぶ道 ⑬』 会津駒ヶ岳

杉本 敏



れて、先に行かれてしまふ。これは松枝岐人気によるものか、尾瀬の交通規制に関しての逃避山行なのか、見当がつかない。

やっとなのおもいで、展望台の休憩地点まで登る。

平成19年8月30日 会津駒ヶ岳が日光国立公園から分離され、尾瀬国立公園が誕生する際に加えられるとのこと、3回目の山行を8月上旬に計画する。小雨の中、松枝岐村まで車を飛ばす。仕事を終わって3時間30分の雨中運転はきつい。

翌日ガスがけむる滝沢コーズ登山口で、赤外線センサーに入山者の一名としてカウントされながら手摺り付きの階段を登り始める。4人連れのペースはなかなか上がらない。次々と元気のよい人達に追い越されてゆく。そこで「ちよっとおかしそ。4年前はこんなに簡単に追い越されなかったのに」と、辺りを見渡しながら当時を振り返る。それは、登山道が広くなった。全体的に広い。トラバース斜面、直登路も広いから、追いつかれたいとおもうと直ぐに抜き去ら

コバイケイソウが輪切りになっている。もしアキノキノソウがあれば同じく切り倒されているはず。足元には花が終わり、まだ黄色が残るキンコウカが一面に広がっている。ちよっと花の名前を間違えたのかなと判断する。

階段を登って山頂に着く。登りきった達成感は元気を生み出すのか中門岳へも行け！行け！になった。他の登山者も同一方向に歩いて行く。今までは会津駒ヶ岳で終了の人達が多く、中門岳は奥座敷の静かな雰囲気があったのに、表舞台に押し出されたようだ。

越後三山がああの中にあるんだよ、と言いつながらハクサンゴザクラ満開のコースを歩く。国立公園への線り入れ山城とのことで登山者が非常に多かった。山の名木「ナナカマド」の木と花を知らない人がいた。このくらいは知っていた欲しいとブツブツである。

下山時、一面黄色となっていてる所で三人娘に、この花の名前なんですか？と問われた。喉元まで出かかった言葉が消えてしまった。相手の顔をみてボーッとしたようだ。年甲斐もないジジイだ。メモ帳にタカネニガナと書き込む。

# 46年の夢実現！ 鹿島槍ヶ岳登頂

木野本 宏 志(長岡ハイキングクラブ)

想いながらもなかなか登れなかった山があるものだ。私にとってそんな山の一つが鹿島槍だ。去る9月24日念願の鹿島槍ヶ岳を登頂することが出来た。鹿島槍ヶ岳への想いは46年も前にさかのぼる。

当時、電気科の学生として完成間近の黒四発電所を見学した。その時見たのが雄大な鹿島槍の姿だった。それ以来、大町や白馬方面行く度に登りたい気持ちが強くなった。9月22日の夕、長岡ハイキングクラブの仲間4名で出発した。

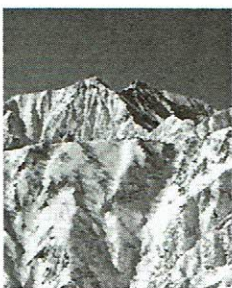
翌朝曇天気味の中、扇沢登山口からよく整備された柏原新道を種池山荘に向けて快調に登る。晴れていれば目の前に針ノ木岳が見えるはずだ。種

池山荘で一服していると、小野 健さんの他5、6人のさわがに山岳会の人たちと一緒に戻りた。その後帰りまでほぼ同じ行程となる。山荘から爺ヶ岳に向けて登る。途中雷鳥が数羽、砂遊びしていた。

この頃から天気も良くなり種池や冷池の山荘が良く見える。ガスの切れ間から剣岳や立山連峰が時折顔を見せる。

翌朝、冷池山荘から鹿島槍だ、心がワクワクする。天気はよく雲海もきれいだ。

チングルマのお花畑をとおり布引岳へ向う途中、鹿島槍の南峰が大きく見える。布引岳の手前の尾根直下で虹と見えた。ついに46年の夢が実現した。山頂付近はやくも紅葉が始まり、三角点を確認。キレットから五竜岳の眺めも最高だ。再会した小野氏から剣、立山、針ノ木などの説明を受ける。立山連峰、槍、穂高と北アルプス全体が手にとるようだ。万歳！すべてが満足。



▲ 岳人を魅了する鹿島槍

# 寄贈図書と新書の紹介



写真でみる高頭祭のあゆみ

## 『写真でみる高頭祭のあゆみ』が発刊される

県山岳協会会員も毎年参加している歴史ある高頭祭の第50回を記念して『写真でみる高頭祭のあゆみ』が日本山岳会越後支部より発刊された。高頭仁兵衛翁の遺徳を偲んだ行事の歴史がまとめられた一冊。

発行日 平成19年7月31日

発行者 (社)日本山岳会越後支部 支部長 平田 大六

・B6版 非売本(残部なし)

・編著 山崎 幸和



越後山岳 第11号

## 越後山岳 第11号

日本山岳会越後支部60年の歴史のなかで創世記のこと、会員のこと、事業実績など貴重な調査資料とともに重要な文献も目をひく。出版構想から3年余、資料の収集、編集、執筆に携わったスタッフの労を讃えたい一冊となっている。

体裁 B6版 503頁

☆頒価 ¥2,900(送料込み)

☆申込問合せ先 日本山岳会越後支部事務局 横山 征平

〒959-3265 関川村下関1100-1 Tel/Fax 0254-64-0469



月報 なんば

## 月報 なんば (No 125~129)

多質にわたった内容と豊富な写真が見る者を惹きつける。一山岳会としての会報(月報)としては、編集の丁寧さと紙質の良さにも好感をおぼえる。

発行 高田ハイキングクラブ

・A4版 10頁~12頁

・内容 例会:行事案内:山行計画:山行報告:地域研究:紀行文など

・会長 市村英明

・編集 伊藤明徳

腰痛・肩こり・冷え・筋力低下

細菌衛生・さい帯血保管 等

総合健康医療器機販売

メディカル ユングフラウ

電話 090-3173-0540

JTB Your Global Lifestyle Partner

70th Anniversary

JTB関東 法人営業新潟支店

新潟市中央区古町通6-976

TEL:025-224-2201 FAX:025-229-5775

<http://www.jtb.co.jp/shop/houjinniigata/>

※“旅”の最新情報、ご覧になれます。

E-mail:h\_mitani388@jtb.jp

お願い

冬山遭難事故防止について



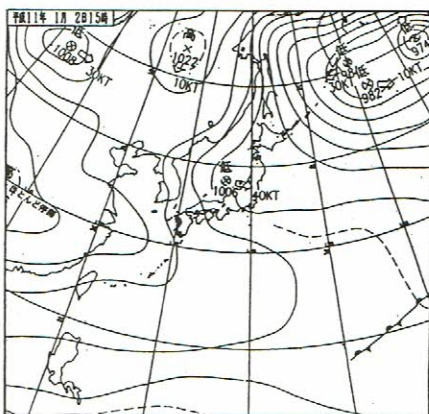
- 各山岳会にあっては冬山シーズンを迎え、荷上げも完了し来る年末での登山準備に追われていることと思いますが、事故防止のため山岳遭難対策協議会、県教育委員会、特に長野・富山県山岳遭難対策協議会から危険地区の指定、注意を喚起する通知が届いていますので次の事項について充分理解し、安全登山を行ってください。
- (1) 適切な登山計画と事前準備を。
  - (2) 登山届の励行。
  - (3) 登山中の慎重な行動
  - (4) 通信手段の確保と緊急連絡体制の確立
  - (5) 緊急時対策の確立
  - (6) 山岳遭難者探索システムの利用
  - (7) 山岳保険への加入
  - (8) 今冬の山岳状況の確認
- 天候急変による遭難事故も多く発生していますので、入山時、行動中も常に気象状況の把握に努めてください。

冬山登山は気象状況の把握から

「山の天気は厳しく、変化も急激」

冬の日本付近の天気は、西高東低の気圧配置（約半分の期間）を基本として、それに替わるように低気圧や高気圧が西側から東に移動していくことの繰り返しです。はじめは高気圧に覆われるなどして穏やかな天気であっても、それが長続きすることもなく、荒天へと急激に変わっていくこともしばしばです。

荒天では、強風による転落、低温による凍傷等、雪崩による災害などが起こります。登山の時には、準備の段階から天気図・天気予報に接して、天気の変化を理解しておくことが先ず必要でしょう。そして入山中も、地元の新しい天気予報などを利用して天気の推移に十分注意してください。



山岳遭難対策中央協議会 冬山登山の警告より

海外・国内旅行、主催・手配



ユニオン航空サービス

国土交通大臣登録旅行業第552号 IATA代理店 (社) 日本旅行業協会会員  
本社：新潟県長岡市幸町1丁目3番5号

<http://www.uks.co.jp>

- 長岡営業所 〒940-0384 長岡市幸町1丁目3番5号 ☎ (0258)33-7123  
一級旅行業専任者 森 碩明
- 新潟営業所 〒950-0918 新潟県長岡市3丁目2番11号 ☎ (025)246-2266  
一級旅行業専任者 中島 聖

登山・ハイキング・クライミング  
テレマーク&山スキー



パーマーク

長岡市西宮内2-97 (長岡市役所裏通り)  
TEL0258 (37)1200 FAX0258 (33)1164  
●営業時間/AM10:30~PM8:00水曜定休

<http://www.parrmark.co.jp>

登山・スキー・テニスの専門店

ヒトと地球のインターフェイス



新潟市中央区堀之内南1丁目16-52 TEL(025)241-5134(代)  
営業時間/平日10:30am~8:00pm 休日10:30am~7:00pm

長い間親しまれた新潟駅前店を新潟とやの店に統合し、9月上旬新生『ICI石井スポーツ新潟店』として更なるバージョンアップを目指しリニューアルオープンいたしました。